

春過ぎてうぐいす 鶯鳴きし七夕に
星空に敷く 青きもみじ葉

令和三年七月七日

大中臣正比呂



太陽暦の七夕は初夏である。旧暦とはひと月ほどの季節が早いので、鶯も鳴くのである。旧暦の七夕は、もう秋で、紅葉の季節だ。長唄「五色の糸」にあるように、七夕には高机たかくえの両端に、切り出した竹を立て、そこに赤、黄、白、青、黒または紫の五色の糸を結んで飾る。早朝に里芋の葉に溜まった露を集めて墨を擦り、「梶かじの葉」に願い事を書くのである。その葉は水盆すいぼんに浮かべ机上に置き、外の星空を映せば願いは叶うという。なかなかの手間だが、粋である。